



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化(カルチャー)にくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力に迫ります。今回は「米子城シンポジウム」を振り返ります。

かるちゃん：さて今回は、1月23日に開催された「米子城シンポジウム」を振り返ってみようか。すごくおもしろかったよね。君たちは何が印象に残っているかな。

ジローくん：まず、佐藤先生の話では「探訪、眺望、食いしん坊」ってキャッチフレーズが印象に残っているね。気軽に登れる城山頂上からのパノラマ景観を中心に米子城の魅力や史跡の活用について端的に言い表していると思うよ。

ミナちゃん：平成18年に国の史跡として指定されたとき、きちんと価値付けされたっていう話もあったわね。変化に富んだ石垣や城下町部分も含めた城郭構造など全体的な価値や魅力が認められたのね。地域の宝だ！って改めて思ったわ。

かるちゃん：佐藤先生は文化庁の調査官なんだけど、各地の史跡を国全体の中でどう位置付け、保存・活用していくべきかを考える立場にあるんだ。重要なのは史跡の価値と、地域でどれだけ愛され、親しまれているかってことなんだね。地域で大切にされてこそ国の宝。活用があつての整備だということだね。

ジローくん：中井先生は、何と言っても「米子城は隠れていない名城だ！」っていう一言にシビれたよ。「石垣しかない」のではなく「石垣がある！」なんだね。

ミナちゃん：米子城跡の下見に来られたときには、お昼ごはんを食べるのも忘れて城山めぐりを楽しんだっておっしゃっていたわね。本当にお城大好き人間なんだっていうのが、言葉の端々にあふれ出ていたわね。

ジローくん：「海を望む天空の城」、「城下から見上げた壮大さと城跡から望む中海の景観」、「二の丸の高石垣と山上の石垣が同時に望める城」など**米子城のここがすごい！フレーズ**の連発だったね。言葉だけで景色が目に見えんてくる。

かるちゃん：中井先生は、日本でも屈指の城郭研究者だよ。本もたくさん出版しておられるし、話もおもしろくてわかりやすいね。全国各地の講演会やメディアでも引っ張りだこさ。その先生の中で今、米子城が好きな城ベスト3に入っているっていうのは、本当に米子城がすごいことだよ。市民に愛され、市民が誇りに思える城跡にっていう思いを強くしたね。

ミナちゃん：第2部のパネルディスカッションでも、それぞれの先生方の熱い思いが伝わってきたわね。金澤先生の大小2つ天守閣についての話や、国田先生の城下町の特色と見どころについての話もおもしろかった。会場からの質問があまりにも多くて、コーディネーターの中原先生もびっくりしておられたわね。

かるちゃん：皆さんが米子城に興味津々だったことだよな。「さぐる、みがく、たのしむ」がキーワードだったね。

ジローくん：翌日のフィールドワーク「米子城がっつりウォーク！」にも行きたかったんだけどなー。中止で残念。

ミナちゃん：雪が降っていたからしょうがないわね。でも、春になったら米子城ウォークをやらしいわね。

かるちゃん：そうそう。暖かくなってきたら米子城関連のいろいろなイベントがあるので今から楽しみだね。**広報よなご**や**市ホームページ**などもちゃんとチェックしておかないとね。それと今回のシンポジウム「隠れたる名城米子城ーその価値と魅力に迫るー」の記録は市ホームページにも掲載してあるから、こちらもじっくりと読み返してみるといいね。きっとまた、新しい発見があるはずだよ。

シンポジウム開催でますます盛り上がってきた米子城。今後も目が離せませんね。次回もおたのしみに！

(米子市教育委員会 文化課)



基調講演1 (佐藤正知先生)



基調講演2 (中井均先生)



パネルディスカッションの様子